



学友支援 ニュース・レター 特別号 No.75

発行：金沢大学学友支援室 2016年11月30日

TEL：076-264-5081 mail：gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

ホームページ：http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html



第10回ホームカミングデイを開催

平成28年10月29日(土)、紅葉の金沢大学角間キャンパスにて、第10回金沢大学ホームカミングデイが開催されました。

歓迎式典には176名、懇親交流会には150名の卒業生及びそのご家族等にご出席いただき、大変盛況で賑やかな一日になりました。歓迎式典は、金沢大学合唱団、フィルハーモニー管弦楽団及び出席者全員による校歌斉唱で始まりました。



● 学長挨拶



◆挨拶を述べる山崎学長

金沢大学学長挨拶で山崎光悦(やまざき こうえつ)学長は、2つの教育改革として、基幹教育を強固に推進し、本学の教育全体の高度化国際化を牽引する「国際基幹教育院」と大学院の2研究科「革新予防医科学共同大学院」、「教職実践研究科」を開設したこと、また、研究力の強化として、ノーベル賞級の最先端の研究者を招へいする本学のリサーチプロフェッサーの1人であるジャン＝ピエール・ソヴァージュ先生が本年度のノーベル化学賞の受賞が決定した等、第3期(平成28年度～33年度)中期目標・中期計画期間の1年目を迎え、金沢大学は、さらに世界と伍した教育研究を行う大学として頑張っていく旨挨拶がありました。

● 金沢大学の近況報告



◆金沢大学の近況を報告する山本理事

山本 博(やまもと ひろし)理事(国際・附属病院・同窓会担当)・副学長から、①キャンパスの今昔、②金沢大学の直近のデータ、③教育研究活動(国際基幹教育院の開設、日本学士院賞等、金沢大学の重点研究「超然」とリサーチプロフェッサー制度)④国際化(マヤ文明遺跡研究、スーパーグローバルELPセンター等)、といった本学の最新の取り組みが紹介されました。

● 学友会会長祝辞

来賓を代表して祝辞を述べられた山出 保(やまで たもつ)金沢大学学友会会長は、学友会の役割は、「一つは国立大学の置かれている環境・条件を理解する。二つ目は、大学と社会に対して思いの丈を述べる」とし、国立大学86大学のうち、重点支援枠③を選択したことは将来的に大変良かったと思っている。そのため、「学長を中心に大学一体となって発展に尽くしてほしい」と激励の言葉を贈られました。



◆祝辞を述べる山出会長(法文学部・昭和29年卒業)

● 初めてキャンパス見学会を実施



◆金沢城河北門で、本学資料館の開催する「城内写真展」を見学する参加者

10月29日(土)の午前中に、キャンパス見学会5コース(①医学、②保健、③旧城内、④角間北、⑤角間南)を開催し、総勢80名の方が参加されました。旧城内コースでは、自分の卒業した学部の建物があった場所や部活で動き回ったグラウンド後を感慨深く見つめていました。

◆ 角間の里イメージソング「森に入ろう。」披露

歓迎式典の最後には、前回は引き続き特定非営利活動法人「角間里山みらい」のイメージソング「森に入ろう。」(作詞：江口 誠、作曲：甲斐正人)が、もりのみやこ少年少女合唱団(26人)による愛らしい声により歌い上げられました。「森に入ろう。」は、金沢大学や企業等と地域連携して「森林の保全」をはじめ、「森のようちえん」や子供の頃から木に親しむ「木育(もくいく)運動」など森での「学びや遊び」大切に育てている「角間里山みらい」のイメージソングとして、昨年制作された合唱曲である旨の紹介がありました。



◆歌を披露する「もりのみやこ少年少女合唱団」

● 特別講演



特別講演では、国立大学法人小樽商科大学長 和田 健夫(わだ たてお)氏から、「大学に身をおいて：ささやかな回顧」と題しご講演いただきました。講演では、Ⅰ 大学生の頃、Ⅱ 教員時代、Ⅲ 大学改革の時代、Ⅳ 21世紀の国立大学に分け、自身の学生時代、教員時代、学長の立場から大学や大学を巡る環境についてお話をされました。

Ⅰ 大学生の頃では、1970年(昭和45年)代は高度成長期を経て、成長は鈍化したが、日本経済は繁栄と反動の繰り返し、学生は平和と成長に囲まれて大学生活を送っていました。経済は右肩上がりに成長し、大卒者の需要が増大し、当時の18歳人口は195万人、大学進学率23%。現在は18歳人口120万人、大学進学率56.5%と大卒が量産されていく時代となりました。

Ⅱ 教員時代では、1980年(昭和55年)代、研究一筋で大学のことに無関心であったが、この頃から国立大学には変革の兆し(教育の自由化)が生まれ始めました。

Ⅲ 大学変革の時代では、1990年(平成2年)代には、大学改革の時代に入った時期でした。

Ⅳ 21世紀の国立大学では、2001年(平成13年)に副学長に就任し、国立大学は少子化対応、多すぎる大学、国の財政規律を受け、2004年(平成16年)国立大学が法人化されました。その後、2013年(平成25年)国立大学改革プラン：ミッションの再定義、機能強化の方向で改革を進めることになり、2014年(平成26年)学長就任となりました。

2016年(平成28年)から第3期中期目標期間に入り、国は概算要求に当たり機能強化に依じた重点配分：3つの枠組みの一つを求め、小樽商科大学は①を選択しました。最後に和田学長は、国からはより機能強化＝大学のブランド化が求められる中、国立大学は、安い授業料と高品質の教育による人材育成等を果たす役割をさらに担っていきたい旨であると結びました。



◆講演する 和田 健夫氏
国立大学法人小樽商科大学長
(法文学部・昭和50年卒業)

● 第6回金沢大学学友会役員総会

第6回金沢大学学友会役員総会では、学友会役員の一部に交代があり、山出会長から松原孝祐つるま同窓会会長、向智里薬学同窓会会長及び加納重義金沢工業会会長の紹介がありました。

山本 博(やまもと ひろし)学友会代表理事からは、名誉会長には、理事会からの推薦により深山 彬(みやま あきら)前金沢学友会会長が承認され、会長から6月17日付けで委嘱したこと、学友会登録同窓会として「金沢大学インドネシア同窓会」と「金沢大学サークルS OB会『新円会』」の2団体が新たに入会したこと等が報告されました。



◆第6回金沢大学学友会役員総会の様子

【学友会新役員 (平成27年11月5日～平成29年11月4日)】
会 長 山出 保 (法経文)

副 会 長 安宅 建樹 (法経文)、金浦 修郎 (教育)
中西 孝 (理)、中村 信一 (医)
松原 孝祐 (保健)、向 智里 (薬)
加納 重義 (工)

代表理事 山本 博 (金沢大学理事(同窓会担当)・副学長)
理 事 鳥越 伸博 (法経文)、澤野 等 (教育)
山本 政儀 (理)、大井 章史 (医)
松崎 太郎 (保健)、松下 良 (薬)
岩田 佳雄 (工)、喜田惣一郎 (四高)
監 事 徳野 光宏 (法経文)、岩田 靖夫 (教育)

● 懇親交流会

夕刻から開始された懇親交流会は、山出会長の発声による乾杯によりスタートしました。会場では、本学琴尺八部により開会前と乾杯後に演奏(曲名：六段の調)していただき、懇親交流会を盛り上げていただきました。

その後、そろいの法被に身を包んだ同窓生有志(和田小樽商科大学長は壇上の左端)による「金沢大学校歌」「北の都」「南下軍」の高唱があり、会は大いに盛り上がりました。

最後に、山本理事から来年は、10月28日(土)に開催するとの言葉があり、今日の皆様の笑顔を来年も見られることを願っていると挨拶がありました。



◆卒業生有志による校歌・寮歌の高唱



◆山本理事による閉会の挨拶



◆琴尺八部の演奏

- 大学が業者に名簿作成を依頼することはありません。電話等による勧誘には十分ご注意ください。
- 地域・職域・サークル・寮等の同窓会活動の近況や総会・懇親会等の開催日程、開催報告等を「学友支援ニュース・レター」に掲載ご希望の場合は、学友支援室までご連絡ください。